

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：32630

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26285117

研究課題名(和文)世界の社会学における日本の社会学の位置とその可能性の研究ー世界社会学会議の場合

研究課題名(英文)The position and future of the Japanese sociology in the World-the case of the World congress of Sociology

研究代表者

矢澤 修次郎 (Yazawa, Shujiro)

成城大学・その他・名誉教授

研究者番号：20055320

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：二つのこれまでに行われたことの無い質問紙調査を行い、世界における社会学の国際化に関する基礎データを取得することができた。そのデータを分析することによって、ヨーロッパ社会学と東アジア社会学の間には社会学の国際化に関してはそれほど大きな差は認められないこと、しかし社会学の国際化の形態に関しては、ヨーロッパの場合には国際化が研究者のキャリアにおいて通常のことになっているのに対して、東アジアでは最大限のコミットメントを要する出来事であること、また東アジア内部では、台湾・韓国タイプ(留学と研究者になることがセットである)と中国・日本タイプ(両者がセットではない)とが分かれることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：We conducted two questionnaire surveys to participants of the 14th World Congress of Sociology and member of the Japan Sociological Society on internationalization of sociology. These are the first surveys of this kind. We got very important basic data. By analyzing the data, we found the following conclusions. (1) Percentage of cross-border transaction (study in abroad, doing research in abroad, teaching in abroad) is not so different in European sociology and East Asian Sociology. (2) The difference in the forms of cross-border exchange activities between European and East Asian scholars is hop-on-hop-off interaction with foreign countries among Europeans and committed time-consuming self-investment interaction in foreign countries among Asians. (3) Taiwanese and Korean scholars tend to invest more than Chinese and Japanese counterparts in their transnational scholarly transactions.

研究分野：社会学

キーワード：社会学の国際化 グローバル化 土着化 キャリア・パターン 東アジア社会学

1. 研究開始当初の背景

日本の社会学の国際化は、日本社会学会がその創設メンバーの一人であった国際社会学会における活動を一つの軸として進められてきた。そこで国際社会学会の世界社会学会議を日本で開催することが長年の課題になっていた。それが2014年に実現した。そこで、世界社会学会議を研究し、そこにおける日本社会学の位置を確認し、さらなる日本社会学の国際化を推進するためにはなにが必要なのかを発見することが焦眉の課題になっていた。

2. 研究の目的

第14回世界社会学会議横浜大会を組織すると同時に、それを研究し、そこにおける日本の社会学の位置を確認、記録すること。その考察に基づいて、日本の社会学のさらなる国際化には、何が必要であるかを見出し、日本の社会学の研究・教育における国際化の促進に資すること。

3. 研究の方法

問題に対するまとまった研究、データが無かったために、基礎的なデータを取得するために、世界社会学会議、日本社会学会を対象に経験的な社会調査を行った。この二つのデータを分析・比較しながら、日本の場合と世界の社会学の場合の異同を明らかにし、それらの結果を日本、東アジア、世界の国際研究集会で発表し、それぞれの社会学が持つ特徴、メリット、デメリットを明らかにする方法を取った。

また世界社会学会それ自体を正確に記録することを目指した。それがどのように組織され、日本の社会学者はそこでどのような活動を行い、また学会が日本社会、とりわけ地域社会や若者にどのようなインパクトを持ったのかという点まで記録した。

4. 研究成果

第14回世界社会学会議は、6000人以上の参加者を集め、日本の社会学の評価を高めることに成功した。世界社会学会議参加者を対象にして、社会学の国際化、教育と研究におけるキャリアに関する調査を行い、この分野における今までになかった基礎データを得ることができた。さらに、日本社会学会会員を対象とした「社会学の国際化に関する調査」も行い、この問題に関する、これまた初めての基礎データを得ることができた。

得られたデータを様々な統計手法によって分析した結果、3つの結論を得ることができた。第一は、3つのタイプの国境を越える活動(海外で学ぶ、海外で研究・調査、海外で教える)については、ヨーロッパ(イギリス、フランス、ドイツ)の社会学者と東アジア(韓国、台湾、中国、日本)の社会学者との間には、著しい差異はないということである。第二は、この3つのタイプの国境を越え

た活動を一つ一つより詳細に検討してみると、ヨーロッパの研究者は機会に応じて、いろいろな海外活動にコミットするのに対して、東アジアの社会学者は一つの海外活動に時間をかけて深くコミットするという、大きな違いがある、ことである。

第三は、東アジアの社会学者の間には、国境を越えた国際的な活動により深くコミットする台湾、韓国のパターンと、それほど深いコミットしない中国、日本のパターンがある、ということである。

国境を越えた研究・教育活動にそれほど投資しないタイプに属する日本は、社会学の国際化のために何をなすべきか。この問いに対する一つの回答は、分析結果を提示した様々な国際会議における討論から得られた。「日本の社会学がなすべきことは、最も身近な地域国際学会をつくり、そこにおける共同研究において国際化を進めると同時に、国内に世界で評価される国際ジャーナルを作り上げることである。」

前者の課題は、東アジア社会学会が作られつつある。この動きに、本研究チームからも多くの人が参加している。また後者に関しては、既に日本社会学会の英文機関誌 International Journal of Japanese Sociology があるので、それを年複数回出版できるように改善してゆくことに依って、実現することができる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

Shujiro Yazawa, For Globalizing Social Science: An Introduction to the Special Issue, 査読有、5、2018、23-25

Chika Shinohara, Single Mothers in Contemporary Japan: Motherhood, Class, and Reproductive Practice, Ezawa Aya . Lanham, MD: Lexington Books, 2016. 156 pp. \$80.00 cloth. ISBN: 9781498529969.、Contemporary Sociology, 査読有、46(6)、2017、667-669
DOI : 10.1177/0094306117734868j

Shujiro Yazawa, Toward a New Construction of Theory of Inequality, European Political Science, 査読有、14(2)、2015、190-192
DOI : 10.1057/eps.2014.49

陳立行, 21世紀における東アジア社会学の機運と挑戦、社会学評論、査読有、65(3)、2014、344-350
DOI : 10.4057/jsr.65.344

首藤 明和、西原 和久、チャイナ・デイ、
社会学評論、査読有、65(3)、2014、336-343
DOI:10.4057/jsr.65.336

野宮 大志郎、国際共同研究の光と影、社会
学評論、査読有、65(3)、2014、327-334
DOI:10.4057/jsr.65.327

矢澤 修次郎、第14回世界社会学会議の
5つの意味、社会学評論、査読有、65(3)、
2014、317-326
DOI:10.4057/jsr.65.317

長谷川 公一、世界社会学会議横浜大会を
振り返る、社会学評論、査読有、65(3)、
2014、308-315
DOI:10.4057/jsr.65.308

Shujiro Yazawa、Internationalization of
Japanese Sociology、International
Sociology、査読有、29(4)、2014、271-282
DOI:10.1177/0268580914539821

[学会発表](計16件)

Masayuki Kanai, Chika Shinohara, and
Hidehiro Yamamoto, Career Mobility and
International Activities: an Analysis
of the ISA World Congress Participants
in Yokohama, The 15th World Congress of
Sociology, 2018

Nobuko Hosogaya, Saeko Kikuzawa, Chika
Shinohara, Is it Better to Study
Abroad? Globalization and Career Paths
for Sociologists in Japan,
International Workshop:
Internationalization of Sociology,
2017

Hidehiro Yamamoto, The Position of
Japan and East Asia in World Sociology,
International Workshop:
Internationalization of Sociology,
2017

町村 敬志、ポスト・グローバルに向け
た大都市研究の課題：都市社会学の視点
から、人文地理学会大会、2017年

Nobuko Hosogaya, Saeko Kikuzawa, Chika
Shinohara, How International
Experience and Gender Matter to
Sociology: Globalization and Career
Paths of Sociologists in East Asia, The
13th East Asian Sociologists Network
Conference, Chung-Ang University,
November 2016

Nobuko Hosogaya, Saeko Kikuzawa, Chika
Shinohara, How Have International
Experience and Gender Shaped Sociology?
Globalization and Career Paths of
Sociologists in Japan, The 13th East
Asian Sociologists Network Conference,
Chung-Ang University, November 2016

長谷川 公一、社会学の国際化に関する研
究(6) - 世界社会学会議横浜大会を越え
て、第89回日本社会学学会大会、九州大学、
2016年10月

西原 和久、社会学の国際化に関する研
究(5) - 国際化をめぐる視線と課題、第
89回日本社会学学会大会、九州大学、2016
年10月

伊藤 公雄、社会学の国際化に関する研
究(4) - 世代/ジェンダーから考える、第
89回日本社会学学会大会、九州大学、2016
年10月

山本 英弘、社会学の国際化に関する研
究(3) - 国際的研究活動関与の諸類型、第
89回日本社会学学会大会、九州大学、2016
年10月

金井 雅之、社会学の国際化に関する研
究(2) - 日本社会学学会員調査の概要と横浜
大会参加者調査との比較、第89回日本社
会学学会大会、九州大学、2016年10月

矢澤 修次郎、社会学の国際化に関する研
究(1) - 序論：社会学の国際化とは何か、
第89回日本社会学学会大会、九州大学、2016
年10月

Chika Shinohara, Nobuko Hosogaya, Saeko
Kikuzawa, Globalization and Career
Paths of International Sociologists:
Cohort Analyses of the 2014 ISA World
Congress Participants, The 12th East
Asian Sociologists Network Conference,
Yokohama National University, November
2015

Masayuki Kanai, Perception of
Internationalization of Sociology by
East Asian Sociologists, The 12th East
Asian Sociologists Network Conference,
Yokohama National University, November
2015

Hidehiro Yamamoto, International
Mobility and the Position of East Asia
in the World Sociology, The 12th East
Asian Sociologists Network Conference,
Yokohama National University, November,
2015

Lixing Chen, Challenge for East Asian Sociology, The 12th East Asian Sociologists Network Conference, Yokohama National University, November, 2015

〔図書〕(計6件)

西原 和久、新泉社、トランスナショナル序説：移民・沖縄・国家、2018年、410

矢澤 修次郎編、成城大学研究機構、日本の社会学の国際化から日本におけるグローバル(globalized and globalizing)社会学へ：グローバルな知的共同体の形成を媒介とする日本の社会学の国際化、2018年、251

矢澤 修次郎編、東信堂、再帰的=反省社会学の地平、2017年、241

矢澤 修次郎編、成城大学研究機構、グローバルな知的共同体の形成を媒介とする日本の社会学の国際化：第14回世界社会学会議の調査・実践・理論・集成、2016年、216

Michael Kuhn, Shujiro Yazawa, Theories about and Strategies against Hegemonic Social Sciences, Ibidem Verlag., 2015, 377

Seung Kuk Kim, Peilin Li, Shujiro Yazawa (eds.), A Quest for East Asian Sociologies, Seoul National University Press, 2014, 594

6. 研究組織

(1)研究代表者

矢澤 修次郎 (YAZAWA, Shujiro)
成城大学・その他部局等・名誉教授
研究者番号：20055320

(2)研究分担者

伊藤 公雄 (ITO, Kimio)
京都産業大学・現代社会学部・教授
研究者番号：00159865

長谷川 公一 (HASEGAWA, Koichi)
東北大学・文学研究科・教授
研究者番号：00164814

町村 敬志 (MACHIMURA, Takashi)
一橋大学・大学院社会学研究科・教授
研究者番号：00173774

篠原 千佳 (SHINOHARA, Chika)
桃山学院大学・社会学部・准教授
研究者番号：00570178

油井 清光 (YUI, Kiyomitsu)
神戸大学・その他の研究科・教授
研究者番号：10200859

野宮 大志郎 (NOMIYA, Daishiro)
中央大学・文学部・教授
研究者番号：20256085

山本 英弘 (YAMAMOTO, Hidehiro)
山形大学・地域教育文化学部・准教授
研究者番号：20431661

細萱 伸子 (HOSOGAYA, Nobuko)
上智大学・経済学部・准教授
研究者番号：50267382

陳 立行 (CHEN, Lixing)
関西学院大学・社会学部・教授
研究者番号：60278314

金井 雅之 (KANAI, Masayuki)
専修大学・人間科学部・教授
研究者番号：60333944

L.A Thompson (L.A Thompson)
早稲田大学・スポーツ科学学術院・教授
研究者番号：70197987

菊澤 佐江子 (KIKUZAWA, Saeko)
法政大学・社会学部・教授
研究者番号：70327154

西原 和久 (NISHIHARA, Kazuhisa)
成城大学・社会イノベーション学部・教授
研究者番号：90143205

Pauline Kent (Pauline Kent)
龍谷大学・国際文化学部・教授
研究者番号：00288648